人口学課題

「日本における
未婚化・晩婚化について」

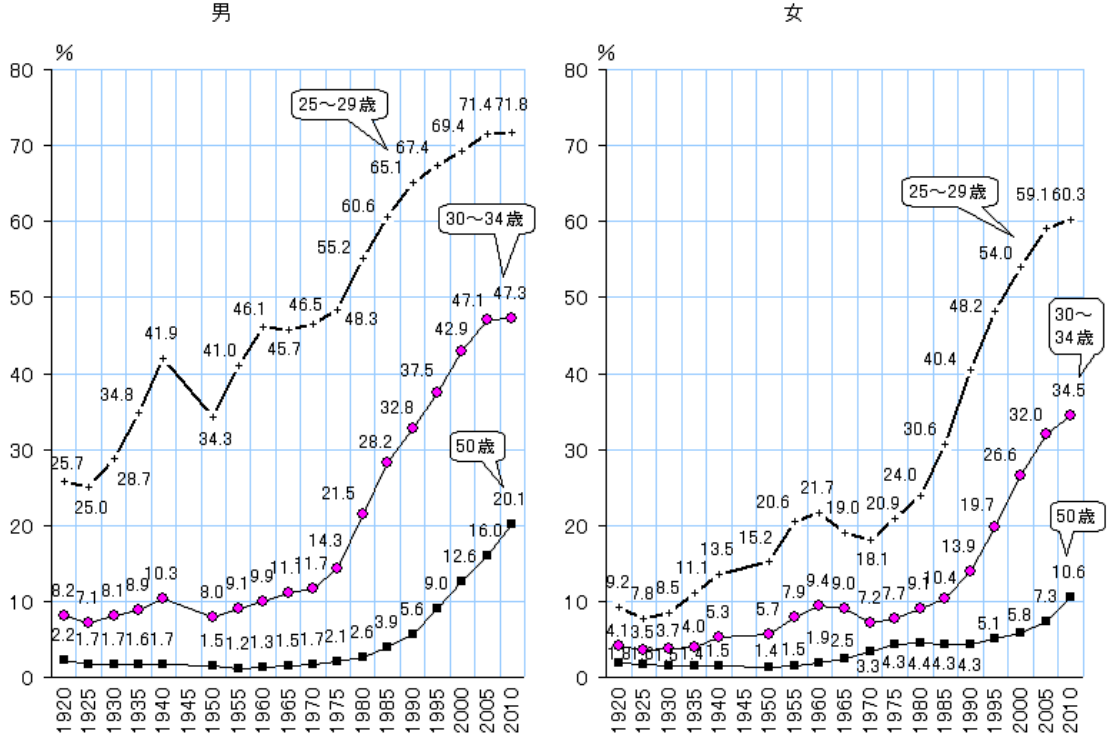
02-112015
高岡由梨子

日本における
未婚化・晩婚化の現状

日本における未婚化・晩婚化の現状1/3

- 年齢別未婚率の推移

年齢別未婚率の推移



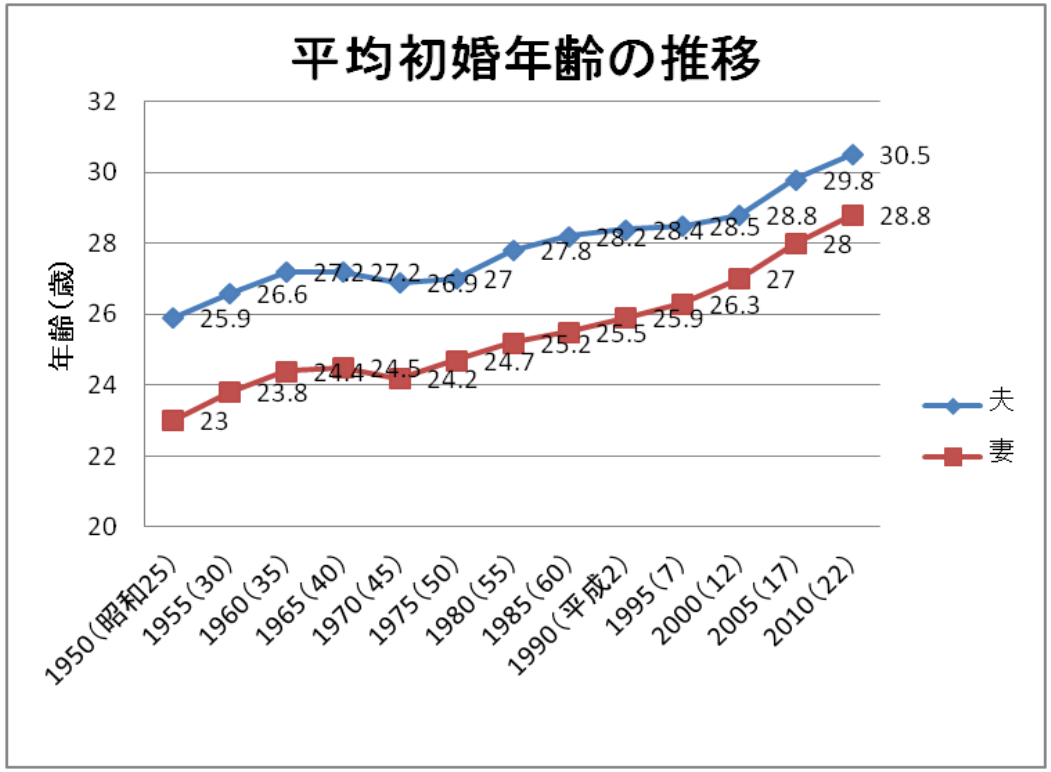
（注）配偶関係未詳を除く人口に占める構成比。50歳時の未婚率は「生涯未婚率」と呼ばれる（45～49歳と50～54歳未婚率の平均値）。

（資料）国勢調査（2005年以前「日本の長期統計系列」掲載）

→男女ともに、未婚化・晩婚化が劇的に進行

日本における未婚化・晩婚化の現状2/3

- 平均初婚年齢の推移

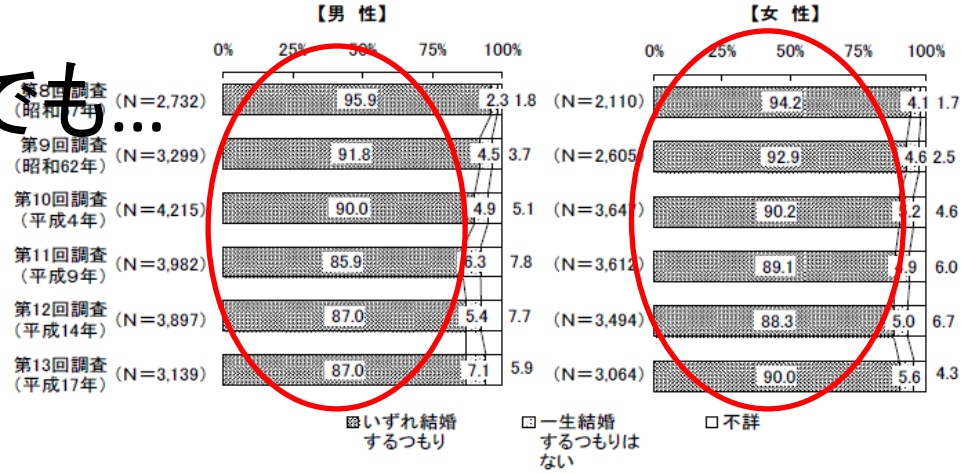


→男女とも、平均初婚年齢は、全体の流れとして伸長している

日本における未婚化・晩婚化の現状3/3

- それでも…

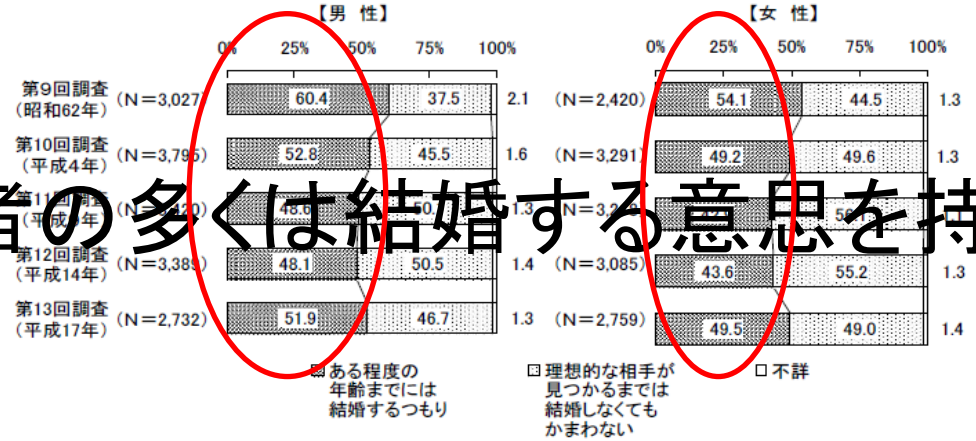
図表２－２　未婚者の結婚意思の推移



（資料）国立社会保障・人口問題研究所「第13回出生動向基本調査『結婚と出産に関する全国調査－独身者調査』」（平成17年）
（注）対象者は18～34歳未婚者。

- 未婚者の多くは結婚する意思を持っている！

図表２－３　結婚意思をもつ未婚者の結婚に対する考え方の推移



（資料）国立社会保障・人口問題研究所「第13回出生動向基本調査『結婚と出産に関する全国調査－独身者調査』」（平成17年）
（注）対象は「いずれ結婚するつもり」と答えた18～34歳未満未婚者。

日本における
未婚化・晩婚化の要因

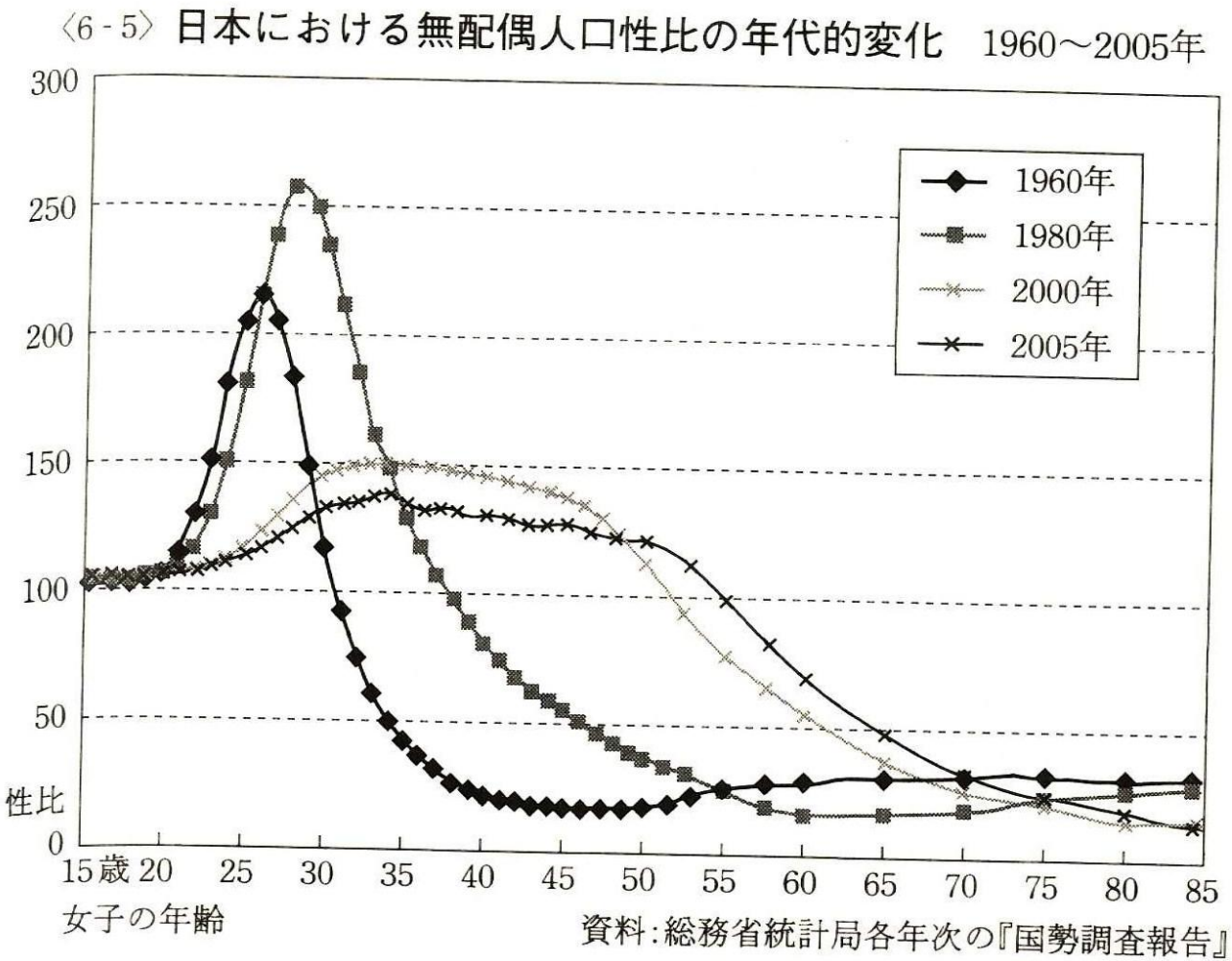
日本における
未婚化・晩婚化の要因

- 大きく分けて人口学的要因と社会・経済・心理的要因の二つがあると考えられる。

- それぞれの要因は相互に関連しているが、ここでは、まず、個々の要因について概観する。

日本における未婚化・晩婚化の要因
人口学的要因1/4

- お手元の資料の図1



日本における未婚化・晩婚化の要因
人口学的要因2/4

- 1960年
  - 24～28歳の間が非常に高く、26歳がピークで200を超えるが、31歳を過ぎると100を割り、更に年齢が増加するにつれて低下の一途をたどる。
  - 無配偶者は常に男性過剰ではなく、男性の人口学的状況が必ずしも不利であったとは言えない。
- 1980年
  - 20歳代後半、30歳代前半で性比が非常に高く、最高が28歳で性比は250を超える。しかしその後急速に低下し、38歳を過ぎると100を割り女性過剰になる。
- 2000年
  - 曲線はだいぶ平たくなり、52歳までは男性が女性よりも多いが35歳のピークでも150を超えることはない。
  - 男性過剰は結婚の適齢期を過ぎても起きている。

日本における未婚化・晩婚化の要因
人口学的要因3/4

- 2005年
  - 曲線はさらに平坦になり、ピークは34歳で性比は130程度、男性過剰は55歳くらいまで続く。
  - このように近年分布の形が変わり中高年まで高い性比が続くことは、晩婚化の影響が強く、男女ともいつまでも未婚者＝無配偶者として滞留するようになったからである。

- 20歳代あるいは30歳代で無配偶者の性比が異常に高くなる理由
  - 男性が求める女性の年齢の選択幅は狭く、逆に女性の方はかなり広いから[1)]。
  - 男性は自分と同い年かそれより年下の女性と結婚する傾向があり、女性は自分と同い年かそれより年上の男性と結婚する傾向がある[3)]。

日本における未婚化・晩婚化の要因
人口学的要因4/4もう少し詳しく見ていくと…

- 1965年から、30～34歳で男性無配偶人口が女性無配偶人口を上回るようになり、この程度は1970年、1975年と徐々に大きくなっていった。
- この傾向は継続し、より高い年齢層でも男性無配偶人口が女性無配偶人口を上回るようになっていった。
- 1975年
  - 人口の多い団塊の世代の男性が20歳代後半になり、結婚適齢期を迎えた時期。従って男性の20歳代後半無配偶人口は約51万人増加した。
  - しかし、この頃の女性の8割は20歳代前半で結婚したため、20歳代後半女性無配偶人口は28万人しか増加しなかった。
  - さらに、1975年の20~24歳の女性無配偶人口は、1970年と比べ、75万人も減少していた。
    - これは、この世代の人口が前の世代に比べて大幅に少ないため。

- こうして1975年から本格的に始まった結婚市場における結婚適齢期の男性供給過剰（適齢期女性の供給不足）は、いわば玉突きの様な形で次世代の適齢期男性に影響を与えることとなった[4)]。

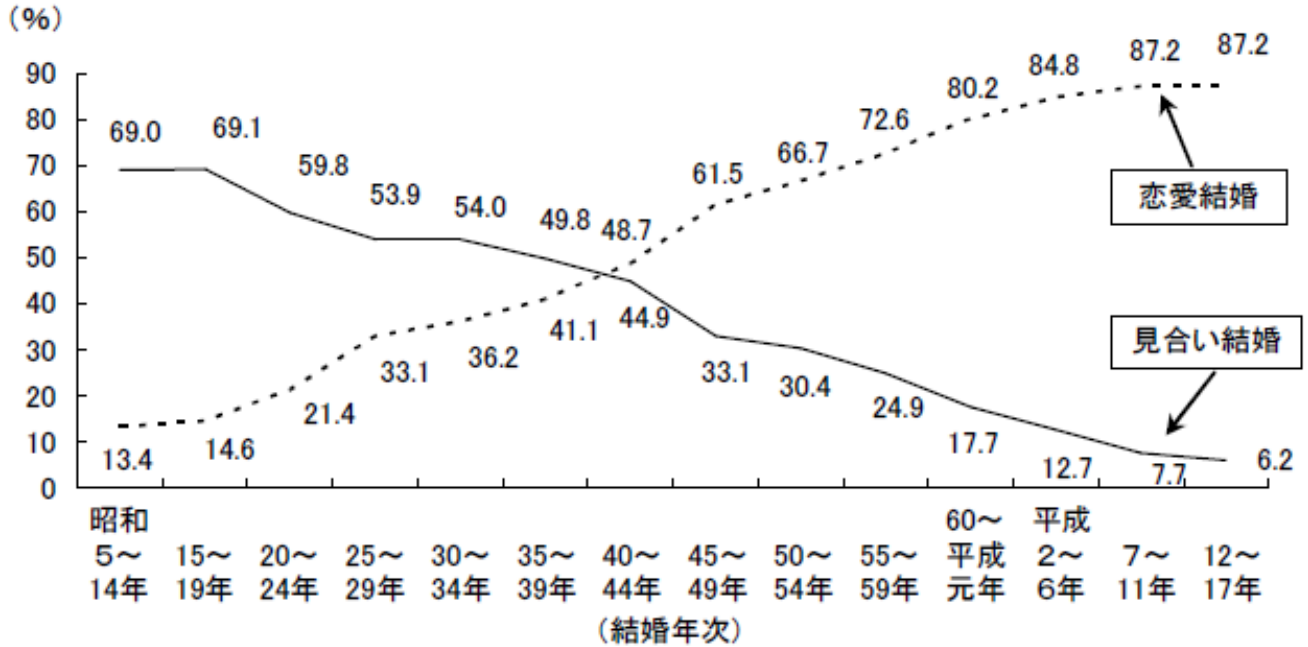
日本における未婚化・晩婚化の要因
社会・経済・心理的要因1/10

- 結婚観の変化
  - 結婚適齢期という規範の弱体化、結婚への圧力の低下。
  - かつて日本には、女性は25歳になったら当然結婚しなくてはならないという規範や[1)]、「結婚して初めて一人前」という観念などがあった[5)]が、これらが弱体化したという事実がある。

日本における未婚化・晩婚化の要因
社会・経済・心理的要因2/10

- 出会いの減少
  - 独身にとどまる理由の第1位は「適当な相手に巡り合わないから」[3)]。

図表２－18　既婚者の恋愛・見合い結婚の推移



(資料)国立社会保障・人口問題研究所「第13回出生動向基本調査『結婚と出産に関する全国調査－夫婦調査』」(平成17年)
(注)対象は初婚どうしの夫婦。

日本における未婚化・晩婚化の要因
社会・経済・心理的要因3/10

- 経済状況の悪化、労働形態の変化
  - 正社員に比べ収入が低く安定していないパート・アルバイトなどの人（特に男性）は、経済的理由から結婚しない、あるいはできないケースが多くなっていると考えられる。
  - 未婚者には結婚前の生活水準維持志向があるとされる。
    - パラサイトシングル
  - 結婚による経済的メリットの減少

日本における未婚化・晩婚化の要因
社会・経済・心理的要因4/10

- ベッカーの説
  - 近年の先進国における未婚化・晩婚化は、結婚のもたらす経済的社会的利点が減少し、一方そのマイナス面、例えば家庭を持つことによって女性は職業を断念せざるを得ないというような機会費用が増大してきたためである[1)]。

日本における未婚化・晩婚化の要因
社会・経済・心理的要因5/10

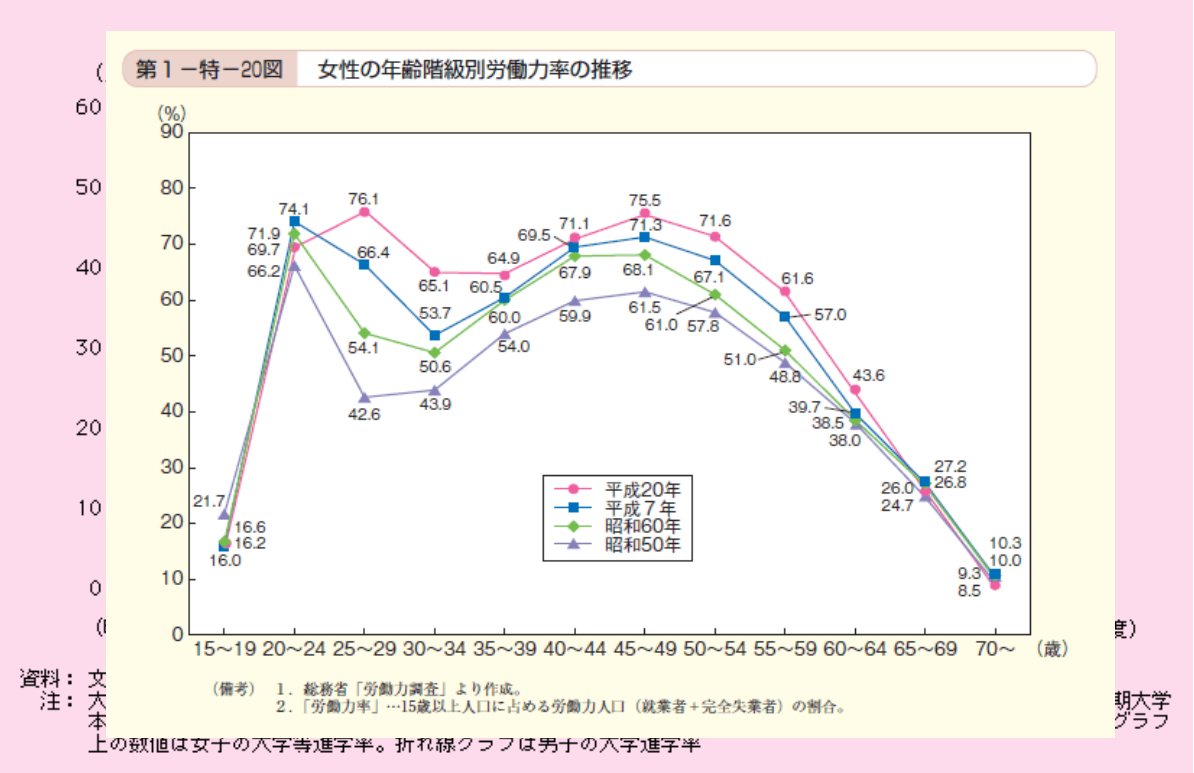
- ライフスタイルの変化
  - コンビニエンス・ストア、ファーストフード店の店舗数および売上高、中食食品などの出荷額の増加
  - 中食食品および外食の低価格化
  - 耐久消費財の普及

  →単身生活の不便さを感じる機会は減少していると考えられる[8)]。
  - 結婚による生活費の節約のメリットは減少している[8)]。

  →結婚のもたらす経済的利点の減少

日本における未婚化・晩婚化の要因
社会・経済・心理的要因6/10

- 女性の高学歴化・社会進出

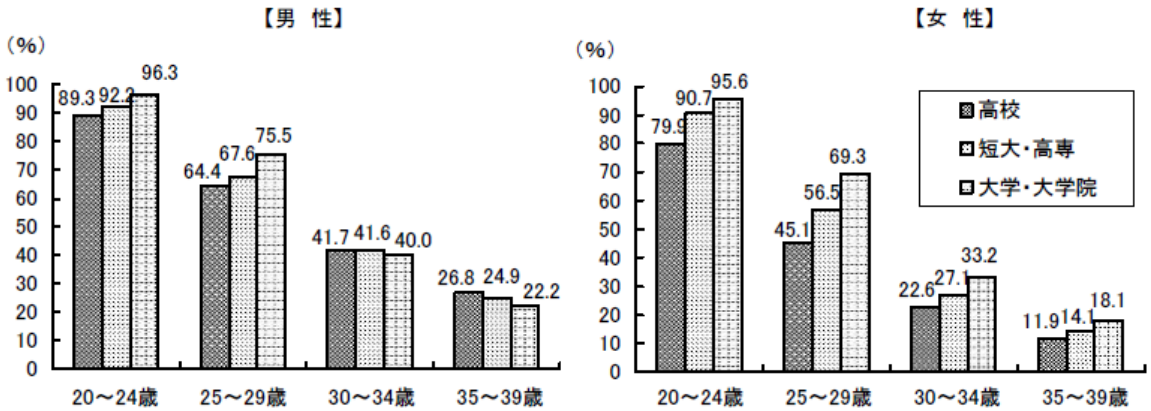


– 女性の高学歴化、社会進出は進んでいる

日本における未婚化・晩婚化の要因
社会・経済・心理的要因7/10

- 女性の高学歴化・社会進出
  - しかし…

図表２－21　年齢階級別最終学歴別未婚率

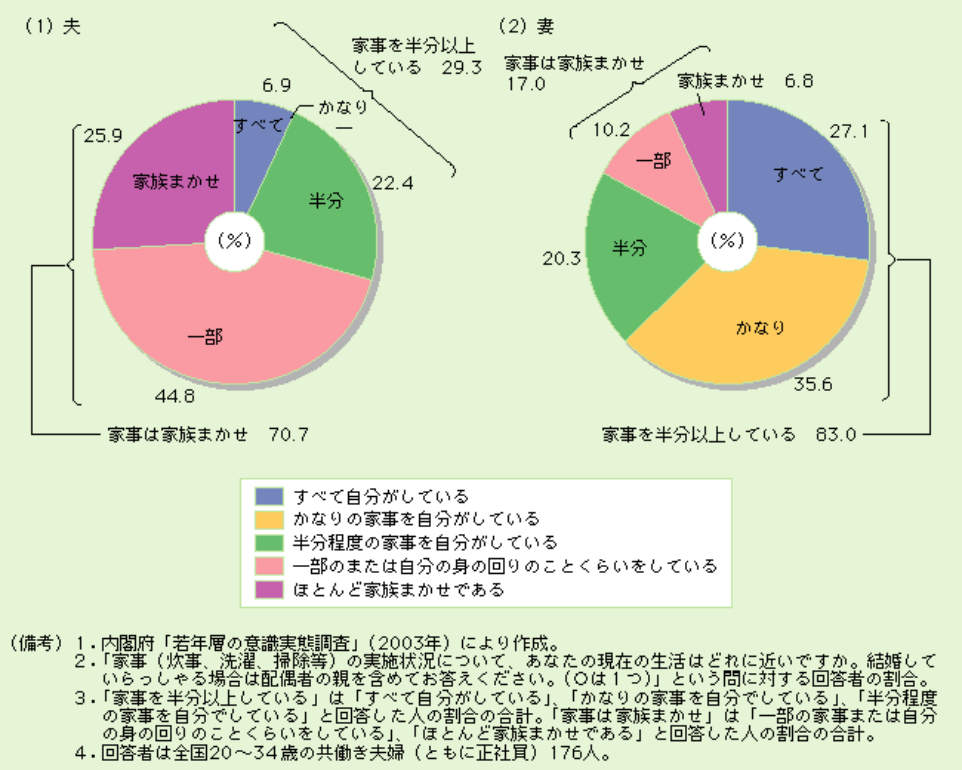


（資料）総務省「国勢調査」（平成12年）

  - いずれの年齢階級でも、高学歴の女性ほどおおむね未婚率は高くなっている。

日本における未婚化・晩婚化の要因
社会・経済・心理的要因8/10

- 女性の高学歴化・社会進出
  - しかも…
    女性にとって
    家事の負担が大きい
  - 家庭の内外での
    ジェンダー観の差
  - →女性は結婚を
    避ける！

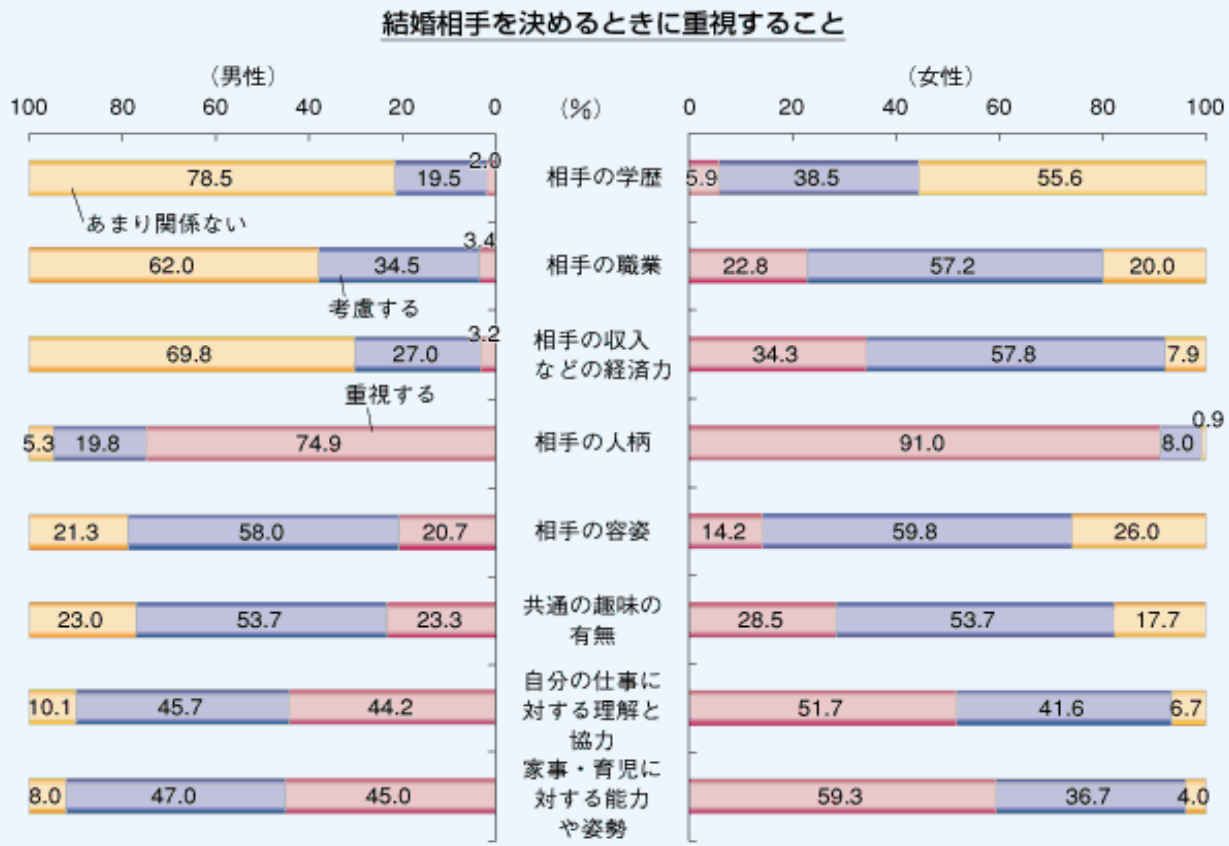


（備考）1．内閣府「若年層の意識実態調査」（2003年）により作成。
2．「家事（炊事、洗濯、掃除等）の実施状況について、あなたの現在の生活はどれに近いですか。結婚していらっしゃる場合は配偶者の親を含めてお答えください。（○は１つ）」という問に対する回答者の割合。
3．「家事を半分以上している」は「すべて自分がしている」、「かなりの家事を自分でしている」、「半分程度の家事を自分でしている」と回答した人の割合の合計。「家事は家族まかせ」は「一部の家事または自分の身の回りのことくらいをしている」、「ほとんど家族まかせである」と回答した人の割合の合計。
4．回答者は全国20～34歳の共働き夫婦（ともに正社員）176人。

日本における未婚化・晩婚化の要因
社会・経済・心理的要因9/10

- 相手に求める条件の男女間ミスマッチ
  - 女 上の
    男
  - 男 下の
    女
  - 経 の高
    学 める
    条 もた
    ら

第１－２－５図　男女で差のある結婚相手に望む学歴・経済力

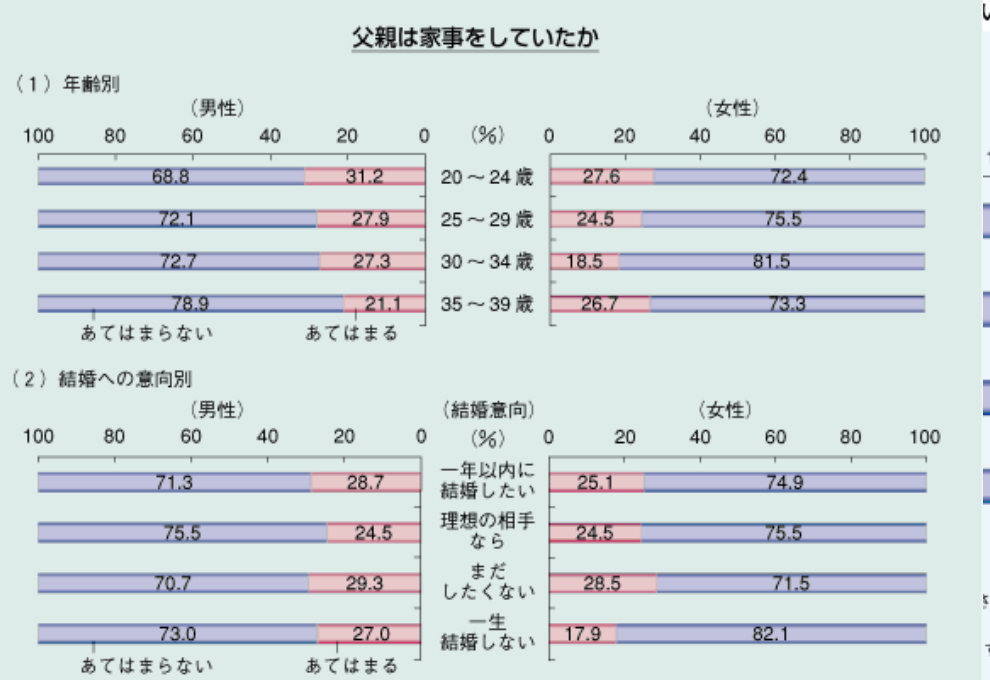


（備考）　1．国立社会保障・人口問題研究所「出生動向基本調査」（2002年）により作成。

日本における未婚化・晩婚化の要因
社会・経済・心理的要因10/10

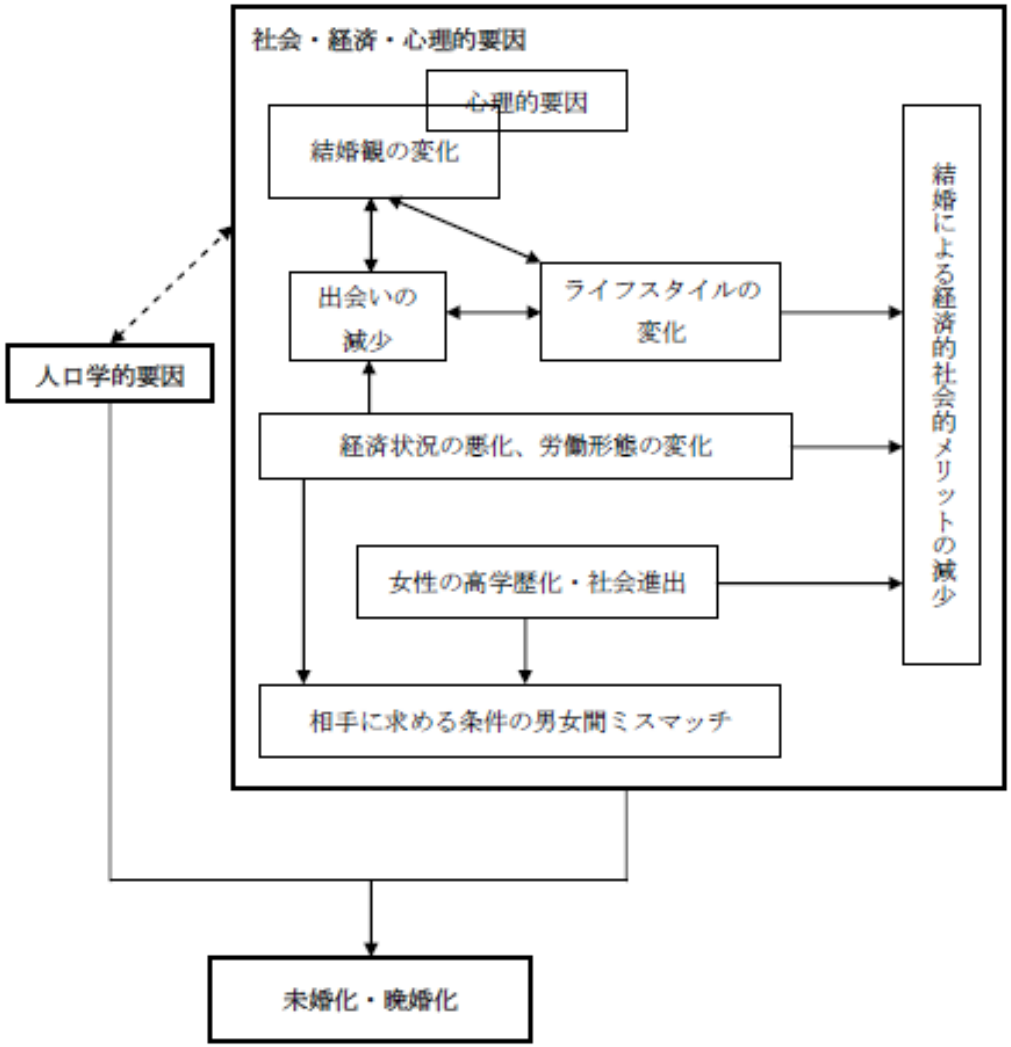
- 心理
  - 「ピ
  - 両
    - 係をうらやま
    - 家事をして

図　「一生結婚しない」とする女性で低い「父親は家事をしていた」



（備考）1．国立社会保障・人口問題研究所「出生動向基本調査」（2002年）により作成。
2．「あなたのご両親や友人について、おたずねします。以下のａ～ｃについて、あてはまる番号に○をつけて下さい。ａあなたが子どもの頃、お父様は、家事をしていた」と尋ねた問に対して回答した人の割合。
3．選択肢はほかに、「該当しない」（質問項目に該当する相手がいない（いなかった）場合は、該当しないを選択することとしている）。
4．「あてはまる」は「あてはまる」及び「どちらかといえばあてはまる」、「あてはまらない」は「あてはまらない」及び「どちらかといえばあてはまらない」を回答した人の数をそれぞれ合計。
5．回答した人は、全国の18歳以上50歳未満の未婚の男性3,427人、同女性3,001人（「該当しない」及び不詳は除く）。

日本における未婚化・晩婚化の要因モデル化



日本の未婚化・晩婚化の地域差

日本の未婚化・晩婚化の地域差1/2

- お手元の資料の図2[13)]より
  - 女性
    - 大都市圏では若年も中年も未婚者率が高い。
    - 非大都市圏では若年未婚率が低く、中年未婚者率はやや低い。
    - 若年の未婚者率が低く、中年の未婚者率が高い地域は離別者率の上位でもある。
  - 男性
    - 大都市圏の中でも若年・中年未婚者率に差が見られる。
    - 今日の農村地域における中高年未婚者の増加

日本の未婚化・晩婚化の地域差2/2

- お手元の資料の図3, 4[7)]より
  - 各都道府県において、1975年よりも2000年で平均初婚年齢が上昇する傾向。
  - 人口密度の高い地域では、概ね平均初婚年齢も高い傾向にある。
    - 人口密度の高い地域では、結婚市場における男女の数が多く、サーチの取引コストが低くなるため、サーチ期間を延ばすことが容易である。従って、結婚タイミングは遅くなると考えられる。
    - 山梨、長野等の例外もある。

お　わ　り

ありがとうございました